

## 受賞式出席企業のコメント

### ○セーレン（株）

今のグローバル社会で生き抜くためには、多様な目線、特に女性目線での企画も大切である。このため、女性の採用や女性の管理職登用や女性の海外研修派遣などを積極的に行っているが、「女性の背中を押してあげる」ことも必要と感じている。全社員が集まって開催する本年6月の会社大会では、女性が中心となりファッションショーを企画・開催する取組なども行っており、社内がますます明るくなってきている。

### ○南越建設工業（株）

女性の役職者登用は当時の建設業界としてはめずらしく、取引先、社内からも抵抗があった。しかし、あきらめずに継続することが大切。反対の声も消え、業績向上、業務の効率化につながっている。今後は子育て世代への対応をもっと明確にし、安心して働ける取組を進めたい。育メン（男性の育児参加）にも力を入れたい。

### ○西田建設（株）

建設業は男性の仕事、若者が少ない、キツイ、汚い、キケンな3Kという建設業界のイメージを払拭するために何かできないかと考え、全社員にアンケートをとった結果、女性が活躍する建設業を目指すこととした。建設業界のイメージアップのため、就職説明会・面接会に女性社員が行き、また、建設業の魅力発信として小学校・中学校・高校への講演活動にも女性社員が行っている。工事部の女性が取材を受ける機会が増え、イメージアップにつながっている。

### ○国立大学法人福井大学

国立大学時代から男女雇用機会均等について率先して行っており、医学部附属病院の看護師や附属学校の教諭については元々女性の在職比率は高く、事務職員については女性の採用比率が高くなっている。大学の教員については学部構成により異なるが、女性研究者を積極的に採用するよう全学的に実践しているところであり、今回の受賞を第一歩として、今後も女性の目線に立った研究環境等の充実を図っていきたい。

### ○学校法人金井学園

女性の活躍推進についてはそれを意識することなく取組んできた。学校法人の業務運営は大学・高校・中学校と部門ごとの縦割りになりがちなので、組織横断的な課題解決については、「学園プロジェクト」と称するタスクフォースを組成し、年齢・性別を問わず意欲ある職員をリーダーに抜擢し運営してきた。さらにそれらの取組に対する成果について、しっかりと承認することで、意欲ある女性のキャリア形成の一助となったものと思料している。